



# ゆくて遥かに

令和3年2月22日(月)

第146号

長野県松本深志高等学校長

## 3年生卒業認定会議(2月17日)

17日の放課後、職員会に先立って卒業認定会議が行われました。コロナの影響で、例年とは大きく異なる一年間でしたが、男子166名、女子156名、合計322名の卒業が認定されました。現在、大学入試の真ただ中にいる3年生ですので、まだほっと一息という心境にはなれないかもしれませんが、卒業の見通しが立って一区切りです。25日からは国公立大学の個別試験(前期日程)も始まります。乾坤一擲、底力を!

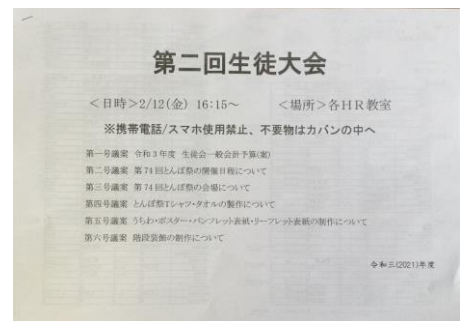


I先生が書初めでしたための激励

## 生徒大会開かれる(2月12日)

12日の放課後、生徒会の最高議決機関である生徒大会が開催されました。12月に開かれた前回は、「第74回とんぼ祭開催の是非について」が最大の議題でした。とんぼ祭のスローガン(「Voyage」、フランス語で「旅行」の意味ですが、提案では

「運命的な旅」となっていました)、令和3年度の生徒会スローガン「協心戮力(きょうしんりくりょく) (心と力を合わせて互いに協力し、物事に取り組むこと。様々な状況において変化を迫られるコロナ禍で、既存の活動の目的や意義を見直し柔軟に対応しながらも、会員一人ひとりに根付く自治の精神を守り継いでいく、と議案書には説明がありました)等が併せて承認されました。今回も



感染症対策を考えて放送による実施、生徒は各HR教室の自席にて参加です。主な議題は、「令和3年度生徒会一般会計予算案」「第74回とんぼ祭の開催日程について」「とんぼ祭の会場について」等です。予算案は折衝会を経ていることもあり、特に異論は出ず、全ての議案は賛成多数で可決されました。



## 深志高校に残っているもの「百季樹人」

本校には、校内のあちらこちらに、いわくありげな扁額、書画、銅像等、古いものがいくつかあります。誰でも目にする所にあるのですが、普段は何気なく見過ごしているもので、改めて指摘されないとその存在すら気がつかないものも少なくありません。しかし、それら一つ一つには本校に存在するに至るいわれがあり、それが深志の歴史の一端を形成していることは間違いありません。今回は、校長室にある「百季樹人」の額について、紹介します。職員誌「ふかし」51号(1991年)に掲載されている下里殖教頭先生(当時)の



「現役を退くにあって、思い起こすこと」からの抜粋です。「この額は校長室にかかっており、創立百年の年に和合松本市長が寄贈してくれたものです。この中で、『季』の字に少しこだわった。『季』ではないかと。記念式典の折に出された『百年特集』を見ると『季』となっている。昭和57年に見えられた小山洋校長は『学年だより』に『年』として紹介しています。書に詳しい英語科の

宮下先生に調べてもらったところ、『季』は『年』と同じであるとのことでした。これを揮毫されたのは『リ・クウモ』(李穀摩) というむずかしい字の方で、当時 35・6 歳の方。昨年突然に市役所から電話があり『これを書いてくれた台湾の書家が明日、松本を表敬訪問されるので貴校の書を見せてやってほしい』とのこと。私は当日は出張になっていたの直接にはお会いできなかったのですが、書と絵画を自学自習で今日の世界的な名声を得てきた台湾の方。丁度名古屋で展覧会を開いた折、松本へ寄られるとのことでした。直接には春日校長先生がお会いになり、この書の出展はどこからかとお聞きしたところ、『ここからのもの』とのはっきりとした書物はないとのこと。また、『季』で間違いなく『ネン』と読むことも確認して下さいました。あと、額の前で記念撮影もされました。以前中国の春秋時代の書物『管子』の中に『一年之計、莫如樹穀、十年之計、莫如樹木、終身之計、莫如樹人、一樹一穫者穀也。一樹十穫者木也。一樹百穫者人也。』という文章があることを、井出前校長先生から教えられた事があります。国語科の務台先生の協力を得て、書棚にある管子(上)を見せてもらいました。『一年の計は、穀を樹(う)うるにごとくは莫(な)く、十年の計は、木を樹(う)うるにごとくは莫(な)く、終身の計は、人を樹(う)うるにごとくは莫(な)し。一たび樹ゑて一穫する者は穀なり。一たび樹ゑて十穫する者は木なり。一たび樹ゑて百穫する者は人なり。』という文があり、一年を目安とする計画は、穀物を植えるのが一番よい。十年を目安とする計画は、木を植えるのが一番よい。一生を目安とする計画は、人を植えるのが一番よい。一度植えて一度収穫のあるのは穀物である。一度植えて十度収穫のあがるのは木である。一度植えて百度も収穫のあがるのは人である、とありました。つまり、教育、人をつくるという作業は、一朝一夕に出来るものではなく、長時間を要し、大変難しい。しかし、天下のためには是非ともそれを長期的視野に立ってしなければならぬものだ。それほど教育は重要で大切であるということでしょう。そういうことが、後世言い伝えられて、知らず、知らずの間に格言となり、李穀摩をして、こんな言葉『百季樹人』をつくらせ、和合市長の懇望に応じて揮毫したのではないかと推測されます」教育は百年の計ということですね。



た、『季』で間違いなく『ネン』と読むことも確認して下さいました。あと、額の前で記念撮影もされました。以前中国の春秋時代の書物『管子』の中に『一年之計、莫如樹穀、十年之計、莫如樹木、終身之計、莫如樹人、一樹一穫者穀也。一樹十穫者木也。一樹百穫者人也。』という文章があることを、井出前校長先生から教えられた事があります。国語科の務台先生の協力を得て、書棚にある管子(上)を見せてもらいました。『一年の計は、穀を樹(う)うるにごとくは莫(な)く、十年の計は、木を樹(う)うるにごとくは莫(な)く、終身の計は、人を樹(う)うるにごとくは莫(な)し。一たび樹ゑて一穫する者は穀なり。一たび樹ゑて十穫する者は木なり。一たび樹ゑて百穫する者は人なり。』という文があり、一年を

目安とする計画は、穀物を植えるのが一番よい。十年を目安とする計画は、木を植えるのが一番よい。一生を目安とする計画は、人を植えるのが一番よい。一度植えて一度収穫のあるのは穀物である。一度植えて十度収穫のあがるのは木である。一度植えて百度も収穫のあがるのは人である、とありました。つまり、教育、人をつくるという作業は、一朝一夕に出来るものではなく、長時間を要し、大変難しい。しかし、天下のためには是非ともそれを長期的視野に立ってしなければならぬものだ。それほど教育は重要で大切であるということでしょう。そういうことが、後世言い伝えられて、知らず、知らずの間に格言となり、李穀摩をして、こんな言葉『百季樹人』をつくらせ、和合市長の懇望に応じて揮毫したのではないかと推測されます」教育は百年の計ということですね。

### その他の話題をいくつか

- ★ 1年信大連携ゼミ(医療系)の様子が長野朝日放送で23日に放映されます。夕方ABNステーションで、内容は信大森田医師の講演(+生徒インタビュー)です。
- ★ 第31回日本数学オリンピック予選に出場した2年の中澤くんが、地区で優秀な成績を収めたということで、数学オリンピック財団から表彰を受けました。数学研究会の友人と誘い合って参加したそうですが、超難関に挑戦する姿勢が素晴らしい。



### 今週の予定(1・2年学年末考査、後期選抜志願受付)

日	曜日	行事等	その他(主に校長動向)
22	月	学年末考査 後期選抜志願受付 学年会	
23	火	天皇誕生日	
24	水		
25	木	(正午まで)	
26	金	ワックスがけ 後期選抜志望変更(～3/3)	WWL研修会
27	土		
28	日	英語検定	
3/1	月	採点日 学年会	